

NO, 164

社友会報

新春号

平成27年1月1日

台湾電力社友会



目次

日月潭第一発電所竣工記念について
寄稿者 林寛培氏

事務局たより

〒 891-0143

鹿児島県鹿児島市和田1-10-1

台湾電力社友会

事務局 下園 菊雄

Tel. 099-267-3058

「台湾電力日月潭と大觀発電所竣工80周年記念大会記事」

著者 林 寛培

台湾電力株式会社は、日月潭と大觀発電所（元日月潭第一発電所）竣工80周年を記念し、祝賀と共に建設工事の犠牲者の慰霊の目的にて、去る7月29日大觀発電所全力をあげての主催の下に記念大会を挙行了した。

大会は当日10時から、大觀発電所の正門前に仮設された広大な式場にて挙行され、呉副大統領の臨席をかたじけなくしたほか、台電の会長、社長、副社長、及び部長クラスと大觀発電所長など歴々の高級幹部が出席したほか、外部からは日本の鹿島建設会社副社長や台北支店長と、地方の長官、議員など、数十名の賓客が列席せられて、迎客の陣太鼓、獅子舞舞踏、合唱などの演出に続いて主催者の挨拶があつて、貴賓の紹介後、呉副大統領の訓示や台電会長の挨拶、各機関の代表の祝辞などが述べられた。

その間に鹿島建設中村社長からの祝文の読み上げ等々全てが予定通り進んだ後、和気霽霽な雰囲気の中に式典が閉幕された。

この式典は参加者をして日月潭計画施工当時の工事参加者が、特別な劣悪な工事環境に臨み身をして、全ての艱難辛苦に耐え、全世界の人々をしてこの大難工事の成功に瞠目させた事実を再度認識し、その成功が台湾の経済と民生に及ぼした偉大な貢献を、謳歌すべきである。

また主力業者鹿島建設会社の功績は特に頌述して永く記念とするに足る。ちなみにこの工事は、

(1) 古今未曾有で恐らく絶後の雄大で困難な工事であつた。何故なら工事現場は大変広大で（武界から埔里、日月潭、車埕、門牌潭、に跨がる。）それがまた殆ど人跡未踏の原始林の中にあり、全然道がなかつた。

(2) 工事現場の衛生環境は特別に劣悪で、チブス、赤痢、コレラ、マラリヤ、ツツガムシ、などの伝染病がはびこり、新来者は100%マラリヤに罹る

(3) 道がないため、資材と機器運搬用に鉄道（二水から車埕

間) 約 50 キロメートルと日月潭周囲の電気鉄道 (延べ約 30 キロメートル) を敷設せざるを得なかつた。

(4) 工事用電源として北山坑発電所 (2, 100 kw) を先に建設せざるをえなかつた。

(5) この工事はダムと発電所建設のほかに付帯工事として送電用に、日月潭から台北と高雄の両地に向けての特高圧送電線路と必要な一、二次変電所や二次送配電線路の建設をした。

そのため工事現場は全島に跨がり、その送電は恰も人間の動脈の働きを果たし、台湾の工業化の促進に寄与し絶体的な推進力となった。

(6) 着工当時は、全台湾の東西南北を含めて総使用電力は約 50, 000 kw のみで急に大観発電所の 100, 000 kw が注ぎ込まれるので台電の高層部は此の大電力の消化に悩み、極力電気の使用を奨励した。

(7) また此の工事は多くの記録を残した、その主なものは

ア、送電電圧が 154, 000 v で当時日本の最高電圧 111, 000 v より遙かに高かつた。

イ、発電所の発電容量は、その当時の最大発電容量より数倍おおいかつた。

ウ、日月潭の容積 145, 000, 000 立方メートルと 364 メートルの落差はともに日本屈指であつた。

エ、昭和 6 年、政府の担保で、アメリカのモルガン銀行団からの us \$ 2, 250 万ドルの融資金額は当時の壮挙であつた。

オ、この計画は当時としては規模が超大で至難であるに加えて、関東地方大震災と、第一次世界大戦後の世界の大不況で資金の融通にこんなんを来たし、工事は一進一退して、何回も停止と復工を繰り返し、実に起工から 16 年の歳月を費やして遂に夢が実現したのであつた。

此の工事計画は、発電が唯一の目標であつたが、月日の移り変わりで今や偉大な揚水発電のメリットが加わつたほか、観光 (毎日平均観光客は、註 1 のとおり) 灌漑 (灌漑面積は約 100,000 ヘクタール) 生活用水の供給 (直接人口約 10,000 人、) 註 2 工業用粋の供給

等々の価値が^麗ひにまして、台湾中部のみならず、全台湾の経済に
数えきれぬ膨大な貢献をもたらしている。

まことに日月潭の存在は今や台湾中部諸県市の経済の死活を扼
する守護神であるといえる。

註1, 2013年度の毎日平均観光客は12,040人2014年1
～7月の平均観光客は毎日16,382人

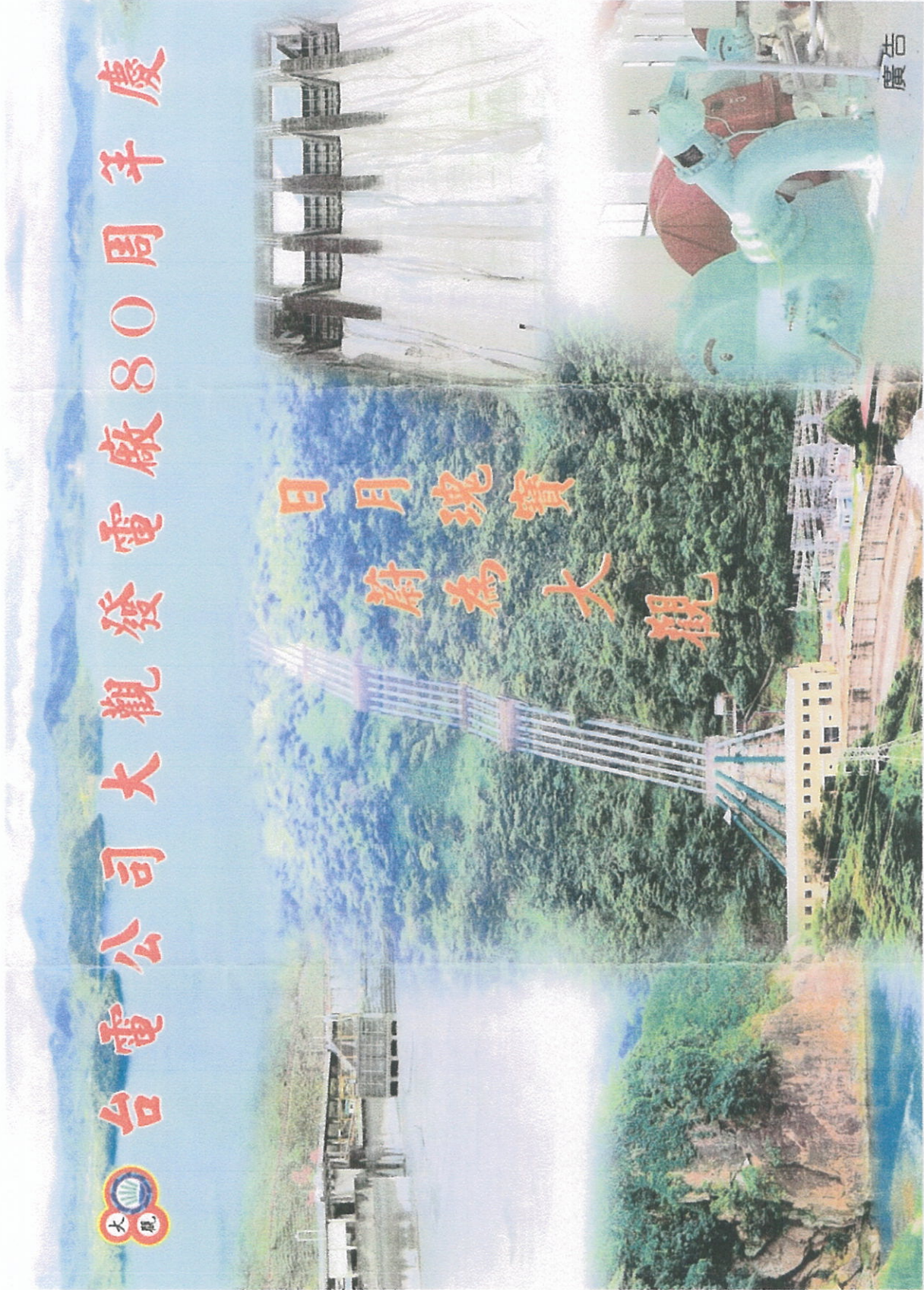
註2, 生活用水の直接使用人数は、観光客と下流の各都市の使用
人数を含まぬ。

註3, 日月潭での漁獲量は、毎年44,000^{キロモ}グラムあつて一般の人には
想像できない、
(おわり)



台電公司大觀發電廠80周年慶

日月瑰寶 蔚為大觀



廣告





事務局便り

新年おめでとうございます。
皆様のご健勝を祈念いたしております。

さて旧年 10 月 21 日から 22 日米国、台湾、東京沖縄と四名の方が鹿児島に来てくださりましたが、当方の不手際で意に尽くせずあいすまなくおもっております。此の方々は、社友報を見ますと、平成 16 年 5 月 6 日第 131 号で、京都の全国大会に参加されていたことが写真と共に搭載されていたことが、当地ご出立後に判明しその写真を見つめた次第です。

今号は、林 寛培様の日月潭発電所の祝典の模様を送付して下さったのでその内容をお送りいたします。小生も一度水裡坑の発電所から日月潭第一発電所の見学に行き、湖の近くで踊る現地の女性のグループを見た思い出があり何となく懐かしさを覚えました。

林さんは、水裡坑の発電所をはじめとし、各発電所を転々と勤務し、万大発電所ちよようを最後に定年退職し、現在は台北市で悠々自適の方のようです。日本にも在職時出張で来日し退職後も 13 回も観光旅行に来られた模様です。文書の字も綺麗な日本語で感心しましたが、たにも他に台電関係の著書が二冊あるとのことでした。本稿を読んで感じたことは、此の工事は鹿島組のみで行われたように感じられ、念のため去る日鹿児島市内の鹿島建設の事務所に電話して実情を本社に照会方依頼したところ、その日に事務所の金田様より回答があり、工事は 10 工区に分かれ大手の鹿島組、大林組、大倉組が 4 工区を持ち他は、当時台湾在住の工事業者が工事を完成されたとのことで、ご苦労なことだったと思いました。なお他の業者の方の名前も判明しましたが割愛させていただきました。直この資料などは台湾電力に勤務されておられる張 秀恵さんのご配慮によるもので深く感謝申し上げます

ほかに、 大観発電廠 80 周年慶特刊
をいただいております。

終わり